

国際大学交流セミナー開講式挨拶

みずほ国際交流奨学財団
専務理事 向山 幸男

ただいまご紹介いただきました、みずほ国際交流奨学財団の向山でございます。

本日、横浜国立大学主催による国際大学交流セミナーの開催にあたり、一言、ご挨拶を述べさせていただきます。

まずセミナーの開催にあたり、横浜国立大学の飯田学長、村田教授をはじめとする諸先生方、そして、国際交流担当部署の関係者の皆様は、本セミナー開催に向けての準備のため多大なエネルギーと時間を使い頑張ってこられたものと拝察いたします。この大変なご尽力に対し、心から敬意を表したいと思います。

今回のセミナーは、「オリンピック・博覧会の開催と都市の現代化、国際化についての日中大学交流セミナー」という名称で、海外からは中国の北京師範大学ならびに華東師範大学から、それぞれ学生8名、引率の教員の方4名、合計24名の方が、一方主催大学である横浜国立大学からは学生20名、教員の方5名の25名がご参加されるとお聞きしております。日程を拝見しますと基調講演、横浜市内、川崎市内、東京都内の見学、グループ討論会・意見交換会など盛りだくさんの内容となっております。

海外から参加された皆さんは、長旅でまだ多少疲れが残っているかもしれませんが、一日も早く本来の体調に回復していただき、セミナーの成功のために全力を注いでいただきたいと思います。

本日ここに集まれたみなさん、そして支援をさせていただくことになりましたみずほ財団にとりましては、このセミナーはひとつの貴重な出会いと考えております。すべてはコミュニケーションから始まります。学生の皆さんには講義を聴くだけでなく、積極的に意見を述べ、質問をし、議論を戦わす前向きの姿勢でこのセミナーに取り組んでいただきたいと思います。

ここで簡単にみずほ国際交流奨学財団についてご紹介させていただきます。
当財団は、1991年3月25日に富士銀行が創立110周年を記念して、富士銀行国際交流奨学財団として設立されました。
2002年に3つの銀行が合併致しましたのを機に名称を、みずほ国際交流奨学財団に改名しましたが、その設立の趣旨や目的・事業内容はまったく変更なく継続しております。

私共財団の目的は、世界各国から我が国の大学に留学する優秀な学生に対し、奨学援助を行ったり、国際交流を担うべき人材育成に資する事業を支援することを通し、我が国と世界各国との国際相互理解の促進、国際友好・親善に寄与することでございます。

現在の主な事業は、①日本の大学院・大学に在学する海外からの留学生を対象とした奨学金給付事業 ②国際大学交流セミナーに対する支援事業 ③日本人のアジア留学に対する奨学金の給付事業でございます。

国際大学交流セミナー支援事業は、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）さんの前身であります財団法人日本国際教育協会（AIEJ）が1974年より行なってきた事業で、その主旨に賛同して私共財団も2002年より共催をさせていただくことになりました。従いまして今年度は当財団にとりまして5年目にあたる訳でございます。

本年度は、全国715大学に募集要項を配布し、38大学44件の応募がありました。その中から最終的には日本学生支援機構（JASSO）が7大学、私共が3大学を採択致しました。そのうちの1つが横浜国立大学さんで、財団の選考委員会の厳しい審査を見事に突破され採択されました。今回の横浜国立大学の国際大学交流セミナーを実現された関係者の皆様の熱意と企画力が、選考委員を動かし、支援を決定したわけであります。財団といたしましてはこのような国際交流に資する有益かつ貴重なセミナーを今後も毎年継続して開いていただくことを飯田学長にお願いしておきたいと思っております。

最後になりましたが、日本学生支援機構および私共みずほ国際交流奨学財団は、このセミナーを通じて、参加されている3大学の相互理解が深まり、国際交流の輪が一層広がり、国際友好・親善に寄与されることを切に願って、ご挨拶の言葉とさせていただきます。

平成19年2月16日